

令和5年度武蔵野市
空き家等実態調査報告書

<戸建編>

<集合住宅編>

—概要版—

令和6年3月

武蔵野市

目次

I 調査の目的	1
II 戸建住宅	1
1 戸建住宅調査の流れ	1
2 戸建住宅調査結果	2
(1) 空家等の総数及び空家率	2
(2) 地区別の空家等の件数及び空家率	4
(3) 平成29年度武蔵野市空き家等実態調査結果との比較	5
3 戸建住宅アンケート調査結果	7
(1) 空家となっている原因	7
(2) 空家で困っていること	8
(3) 空家の利活用について	9
(4) 期待する支援	10
III 集合住宅	11
1 集合住宅調査の流れ	11
2 集合住宅調査結果	12
(1) 集合住宅空き室の状況	12
(2) 平成29年度武蔵野市空き家等実態調査結果との比較	13

<用語の定義>

本資料では、以下のように用語を整理し用いた。

■「空家等」：空家等対策の推進に関する特別措置法に規定する「空家等」をいう。

■「空き家等」：「空家等」及び集合住宅の「空き室」を含み、この調査の総称とした。

■「空家等候補」：外観目視調査で常時居住している可能性が低い「戸建住宅」とした。

■「管理状況にある空家等」：「空家等」のうち、維持管理されている状況にあり、建物又はその敷地の管理不全度が低い空家等であり、「管理不全状況にある空家等」に該当しない空家等とした。

■「管理不全状況にある空家等」：「空家等」のうち、管理不足が原因により、建物又はその敷地の管理不全度が高い空家等であり、「老朽危険度判定」で「D判定」及び「その他の項目」に該当する「戸建住宅」とした。

■「空家」：「空家等」と同義ではあるが、アンケート調査は、一般的な用語である「空家」を使用した。

■「空き家」：住宅・土地統計調査（総務省統計局）における用語であり、定義は「居住世帯のない住宅のうち、一時現在者のみの住宅と建築中の住宅を除いたもの」とされている。本資料では、住宅・土地統計調査（総務省統計局）を出典としている表・グラフに使用した。

■「管理不全居住住宅」：居住はみられるが、建物又はその敷地の管理不全度が高い住宅とし、本調査では、居住がみられる住宅でも、「老朽危険度判定」で「C、D判定」と同等である場合及び「その他の項目」に該当がある場合に「管理不全居住住宅」として判断した。

■「集合住宅」：賃貸・分譲マンション、長屋等の総称とした。

■「空き室」：水道閉栓データが「1年間使用されていない」又は「使用量が 6m^3 （1年間に行われる検診時に、1度も 1m^3 を超えなかったもの）以下」である集合住宅の住戸。

I 調査の目的

本市では、「空家等対策の推進に関する特別措置法」に基づき、空家等の予防・適正な管理・利活用等の視点を含めた空家等対策計画を策定するにあたっての基礎資料とするため、平成 29 年度に市内全域に存在する空家等についての実態調査（以下「前回調査」という。）を行いました。

本調査は、戸建住宅について、水道の使用状況及び前回調査以降にあった市民等からの通報等により新たに空家等と疑われる住宅の実態調査を実施するとともに、前回調査で判定された空家等の経年変化を把握し、その結果を空家等に関する施策を行うための基礎資料とすることを目的としました。

また、集合住宅については、住宅ストックの利活用の方向性を検討するための基礎資料とするため、水道の使用状況から空き室の実態を把握しました。

II 戸建住宅

1 戸建住宅調査の流れ

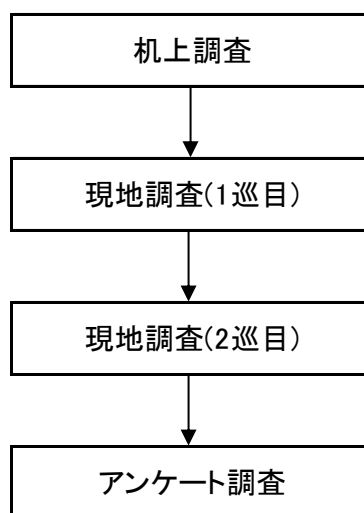
机上調査として空家等候補となりうる建物の抽出を行いました。空家等候補は、水道の使用量及び閉栓の情報から、使用量が 6 m^3 以下（1年間に行われる検針時（年6回）に1度も 1 m^3 を超えなかったもの）又は前回実態調査（平成 29 年 8 月 9 日時点）以降に閉栓しているものを水道が1年以上使用されていない建物として抽出しました。加えて、市が把握している空家等の可能性がある住宅も空家等候補として抽出しました。

現地調査は、2回に分けて実施し、1巡目調査では居住の有無と管理不全居住住宅候補を確認しました。

2巡目調査では、1巡目調査により「居住無し」及び「管理不全居住住宅候補」と判定した建物について、老朽危険度の詳細な調査を実施しました。

また、2巡目調査において空家等候補と判定した建物のうち戸建住宅等については、課税台帳情報等を基に確認した所有者に対し、空家に関するアンケート調査を実施しました。

【調査の流れ】



2 戸建住宅調査結果

(1) 空家等の総数及び空家率

戸建住宅の空家等は、市内の戸建住宅世帯数 20,305 件に対して 208 件となり、空家率は 1.0% となりました。

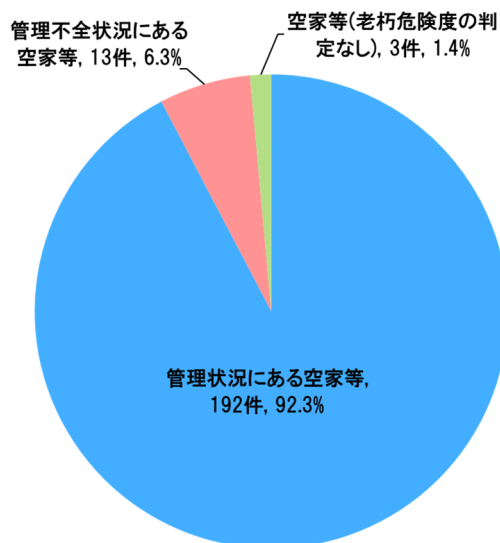
空家等の内訳は「管理状況にある空家等」が 192 件 (92.3%)、「管理不全状況にある空家等」が 13 件 (6.3%)、「空家等 (老朽危険度の判定なし)」が 3 件 (1.4%) となりました。

なお、「空家等(老朽危険度判定なし)」とした 3 件は、樹木の繁茂などの理由により、外観目視調査が行えないため、老朽危険度に関する集計に加えませんでした。

■空家等判定結果(空家等の総数及び空家率)(N=208)

項目	件数	割合	戸建住宅世帯数	空家率(※)
管理状況にある空家等	192	92.3%	20,305	0.9%
管理不全状況にある空家等	13	6.3%		0.1%
空家等(老朽危険度の判定なし)	3	1.4%		0.0%
総計	208	100.0%	20,305	1.0%

※空家率は「空家等の件数 / (戸建住宅世帯数 (令和 2 年国勢調査) + 空家等の件数)」で算出した。



管理不全状況にある空家等 13 件の内訳は、建物自体及び建物以外の敷地等が管理不全であると判定された住宅は 6 件、建物以外の敷地等のみが管理不全であると判断された住宅が 7 件となりました。

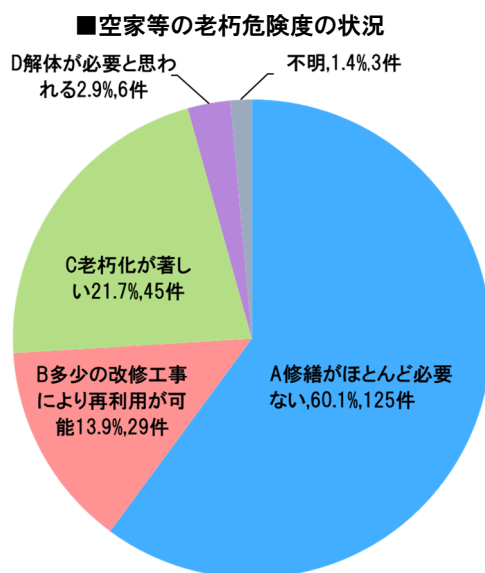
■空家等の老朽危険度等の内訳(N=208)

(件)

建築物の老朽危険度	管理状況にある空家等	管理不全状況にある空家等		不明	総計	割合
		建物に関する判定項目	建物以外に関する判定項目			
A判定	124	—	1	0	125	60.1%
B判定	28	—	1	0	29	13.9%
C判定	40	—	5	0	45	21.7%
D判定	—	6		0	6	2.9%
不明	0	—	—	3	3	1.4%
総計	192	13		3	208	100.0%

建物の老朽危険度の判定では、再利用が可能である「A判定：修繕がほとんど必要ない」は 125 件（60.1%）となり、全体の半数以上となりました。

一方、管理不全状況にある空家等の対象となる「D判定：解体が必要と思われる」は 6 件（2.9%）となりました。



■建物の老朽危険度判定基準

判定	説明
A	小規模の修繕により再利用が可能(修繕がほとんど必要ない)
B	維持管理が行き届いておらず、損傷もみられるが、当面の危険性はない(多少の改修工事により再利用が可能)
C	ただちに倒壊や建築資材の飛散等の危険はないが、維持管理が行き届いておらず、損傷が激しい(老朽化が著しい)
D	倒壊や建築資材の飛散等の危険が切迫しており、緊急度が極めて高い(解体が必要と思われる)

(2) 地区別の空家等の件数及び空家率

地区別の空家等の件数は、「境1丁目」が13件と最も多く、次いで「吉祥寺南町4丁目」及び「吉祥寺北町1丁目」が11件、「吉祥寺南町3丁目」及び「境南町1丁目」が10件という結果となりました。

地区別の空家率(=空家等の件数/(戸建住宅の世帯数(令和2年国勢調査)+空家等の件数))は、「境1丁目」が3.5%と最も高く、次いで「緑町2丁目」が2.4%、「境南町1丁目」が2.3%という結果となりました。

■地区別の空家等の件数及び空家率(N=208)

地区	①	②	③	④	⑤	⑥
	管理状況にある空家等	管理不全状況にある空家等	不明	空家等の件数	戸建住宅の世帯数	空家率 ④/(④+⑤)
吉祥寺東町1丁目	3	0	0	3	609	0.5%
吉祥寺東町2丁目	6	0	0	6	1,108	0.5%
吉祥寺東町3丁目	8	0	0	8	764	1.0%
吉祥寺東町4丁目	6	2	0	8	378	2.1%
吉祥寺南町1丁目	1	1	0	2	348	0.6%
吉祥寺南町2丁目	5	0	1	6	435	1.4%
吉祥寺南町3丁目	10	0	0	10	809	1.2%
吉祥寺南町4丁目	11	0	0	11	686	1.6%
吉祥寺南町5丁目	2	0	0	2	350	0.6%
御殿山1丁目	1	1	0	2	153	1.3%
御殿山2丁目	1	0	0	1	287	0.3%
吉祥寺本町1丁目	0	0	0	0	60	0.0%
吉祥寺本町2丁目	5	0	0	5	244	2.0%
吉祥寺本町3丁目	3	0	0	3	427	0.7%
吉祥寺本町4丁目	6	0	0	6	709	0.8%
吉祥寺北町1丁目	10	1	0	11	855	1.3%
吉祥寺北町2丁目	2	0	0	2	441	0.5%
吉祥寺北町3丁目	3	0	0	3	682	0.4%
吉祥寺北町4丁目	1	0	0	1	499	0.2%
吉祥寺北町5丁目	1	0	0	1	392	0.3%
中町1丁目	1	0	0	1	97	1.0%
中町2丁目	4	0	0	4	348	1.1%
中町3丁目	5	1	0	6	543	1.1%
西久保1丁目	6	0	0	6	603	1.0%
西久保2丁目	1	0	0	1	583	0.2%
西久保3丁目	1	0	1	2	576	0.3%
緑町1丁目	0	0	0	0	251	0.0%
緑町2丁目	1	0	0	1	41	2.4%
緑町3丁目	2	1	0	3	135	2.2%
八幡町1丁目	2	0	0	2	181	1.1%
八幡町2丁目	0	0	0	0	24	0.0%
八幡町3丁目	0	0	0	0	236	0.0%
八幡町4丁目	2	0	0	2	282	0.7%
関前1丁目	2	0	0	2	140	1.4%
関前2丁目	2	0	0	2	385	0.5%
関前3丁目	5	0	0	5	541	0.9%
関前4丁目	4	0	0	4	292	1.4%
関前5丁目	5	1	0	6	347	1.7%
境1丁目	10	3	0	13	360	3.5%
境2丁目	5	0	1	6	288	2.0%
境3丁目	3	0	0	3	454	0.7%
境4丁目	2	0	0	2	229	0.9%
境5丁目	5	0	0	5	389	1.3%
境南町1丁目	10	0	0	10	434	2.3%
境南町2丁目	3	0	0	3	263	1.1%
境南町3丁目	5	0	0	5	405	1.2%
境南町4丁目	6	1	0	7	487	1.4%
境南町5丁目	7	0	0	7	474	1.5%
桜堤1丁目	1	0	0	1	165	0.6%
桜堤2丁目	3	0	0	3	210	1.4%
桜堤3丁目	4	1	0	5	306	1.6%
総計	192	13	3	208	20,305	1.0%

(3) 平成 29 年度武蔵野市空き家等実態調査結果との比較

空き家等の件数は、前回調査 295 件に対して 208 件となり、87 件減となりました。
 空き家率は、前回調査 1.5%に対して 1.0%となり、0.5%減となりました。

■空き家等の件数

項目	H29年度	R5年度	増減
管理状況にある空き家等	264	192	-72
管理不全状況にある空き家等	31	13	-18
空き家等(老朽危険度判定なし)	0	3	3
総計	295	208	-87

※「空き家等(老朽危険度判定なし)」は、植物の繁茂等により、老朽危険度の詳細調査が不可能であった空き家等。

■空き家率

項目	戸建住宅の世帯数	空き家等の件数	空き家率
H29年度	19,751	295	1.5%
R5年度	20,305	208	1.0%

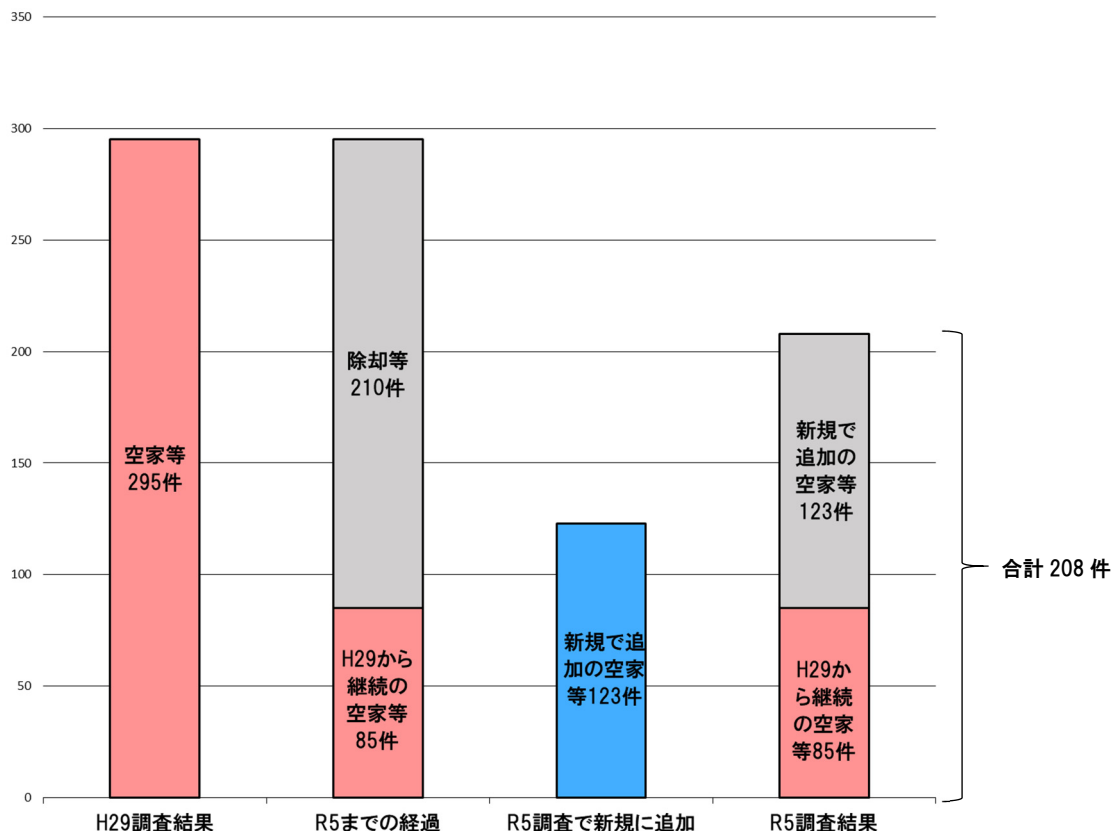
※H29年度の空き家率は「空き家等の件数/(戸建住宅世帯数(平成27年国勢調査)+空き家等の件数)」で算出した。

※R5年度空き家率は「空き家等の件数/(戸建住宅世帯数(令和2年国勢調査)+空き家等の件数)」で算出した。

前回調査からの経過では、295 件の空き家等のうち、210 件(71.2%)は除却等となり、継続して空き家等となっているものは 85 件(28.8%)となりました。

今回の調査で追加された新規の空き家等は 123 件となったため、今回の調査における空き家等は 208 件となりました。

■空き家等の推移



建物の老朽危険度の内訳を前回調査と比較すると、「A判定」は、70件減少し、割合は5.9%減少となりました。「B判定」は、28件減少し、割合は5.4%減少となりました。「C判定」は、21件増加し、割合は13.4%増加となりました。「D判定」は、13件減少し、割合は3.5%減少となりました。

なお、前回調査の管理不全状況にある空家等31件については、27件(87.1%)は除却等となり、継続している管理不全状況にある空家等は4件(12.9%)となりました。今回の調査で追加された新規の管理不全状況にある空家等は9件となったため、今回の調査における管理不全状況にある空き家等は13件となりました。

■建物の老朽危険度内訳の比較

	建築物の老朽危険度	管理状況にある空家等	管理不全状況にある空家等		不明	総計	割合
			建物に関する判定項目	建物以外に関する判定項目			
平成29年度調査	A判定	188	—	7	0	195	66.1%
	B判定	55	—	2	0	57	19.3%
	C判定	21	—	3	0	24	8.2%
	D判定	0	19	—	0	19	6.4%
	総計	264	31	—	0	295	100.0%
令和5年度調査	A判定	124	—	1	0	125	60.2%
	B判定	28	—	1	0	29	13.9%
	C判定	40	1	—	4	45	21.6%
	D判定	0	6	—	0	6	2.9%
	不明	0	—	—	3	3	1.4%
総計	192	13	—	3	208	100.0%	

■建物の老朽危険度内訳の増減

項目	H29年度	R5年度	増減
A判定	195	125	-70
B判定	57	29	-28
C判定	24	45	21
D判定	19	6	-13
不明	0	3	3
総計	295	208	-87

前回調査時から継続して空家等となっている85件について老朽危険度の変化を見ると、再利用が可能である「A判定」とされた空家等は、前回調査の49件(57.6%)から47件(55.3%)となり大きな変化はありませんでした。

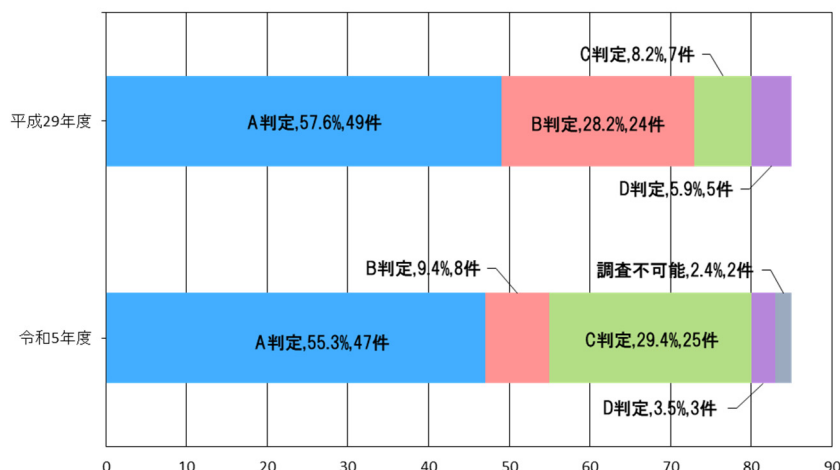
当面の危険性はなく、多少の改修工事で再利用が可能な「B判定」とされた空家等は、前回調査の24件(28.2%)から8件(9.4%)となり減少しました。

ただちに倒壊等の危険はないが、損傷・老朽化が著しい「C判定」とされた空家等は、前回調査の7件(8.2%)から25件(29.4%)となり増加しました。

対策が必要とされる「D判定」とされた空家等は、前回調査の5件(5.9%)から3件(3.5%)となり大きな変化はありませんでした。

この比較では「B判定」が減少し、「C判定」が増加していることから、老朽化の進行が確認できる結果となりました。

■継続空家等の老朽度の比較

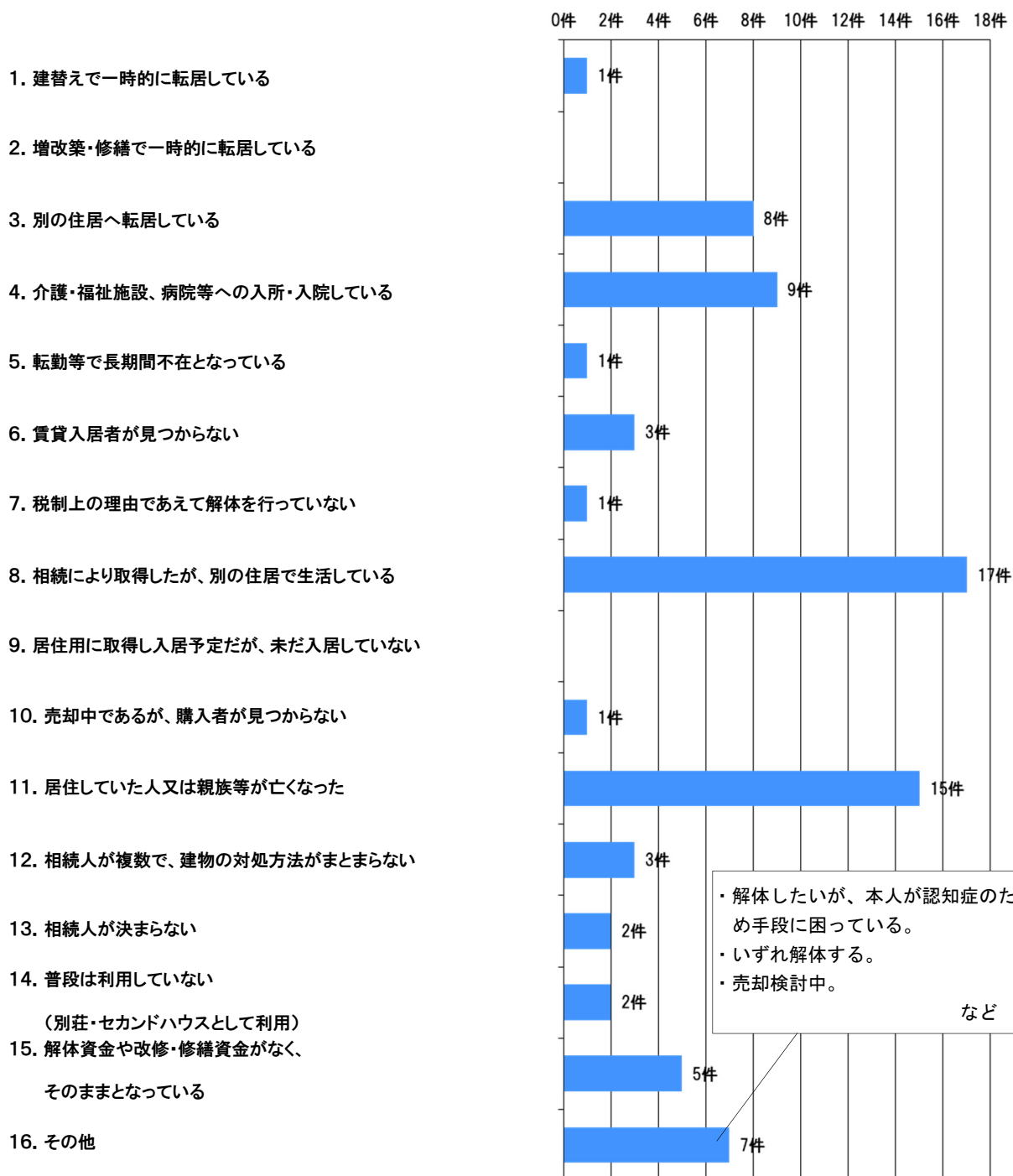


3 戸建住宅アンケート調査結果

(1) 空家となっている原因

空家となっている原因は、「8. 相続により取得したが、別の住居で生活している」、「11. 居住していた人又は親族等が亡くなった」、「4. 介護・福祉施設、病院等への入所・入院している」という回答が多くみられました。

■空家になっている原因(n=43)[あてはまる項目すべて選択]



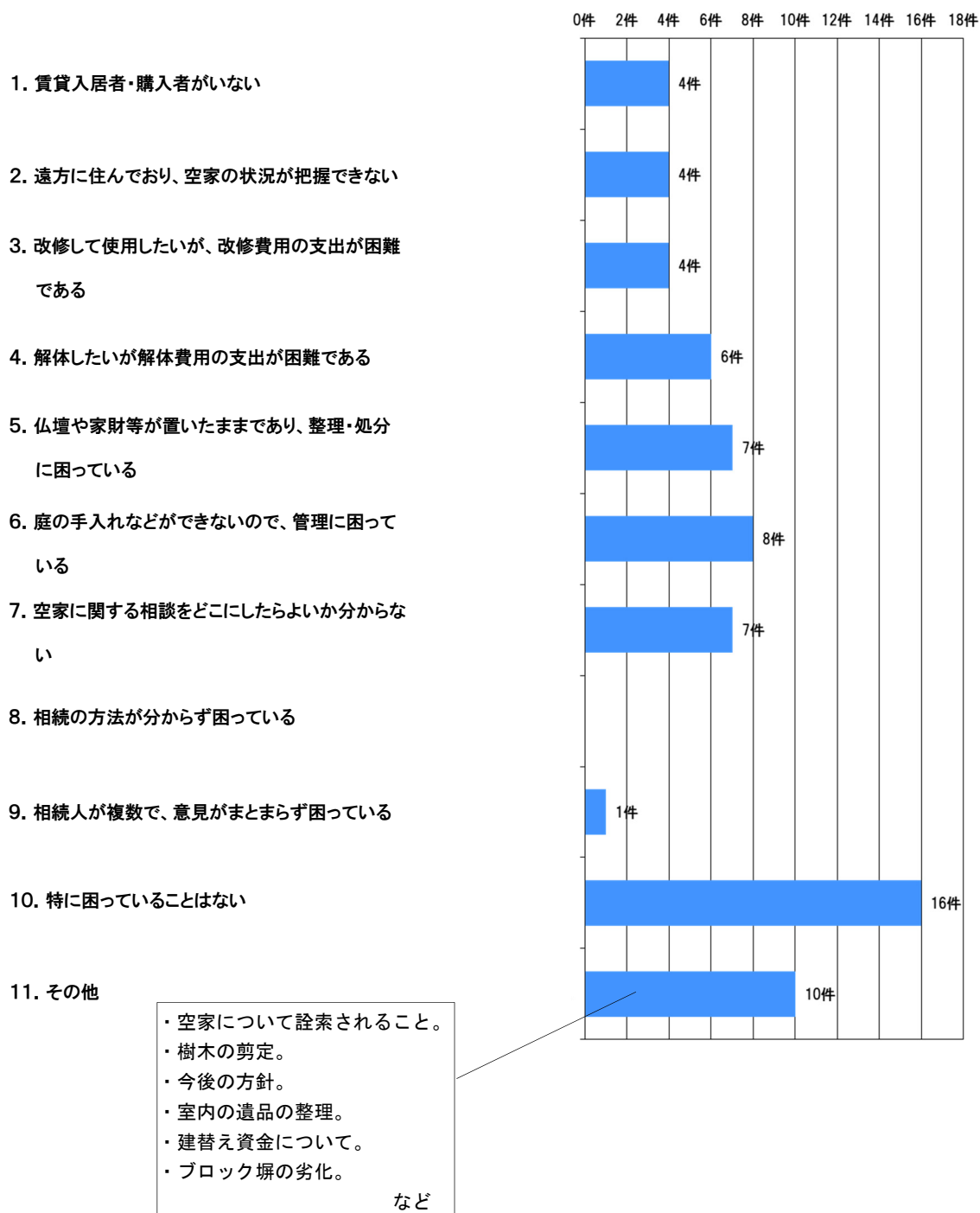
※「n=43」は、アンケート項目において、使用状況が「賃貸（1年未満入居なし）」及び「賃貸（1年以上入居なし）」であったもの、使用頻度が「数年に1回」であったもの、使用状況が「空家である」であったもの、計43件が標本数となっています。

(2) 空家で困っていること

空家で困っていることは、「10. 特に困っていることはない」が最も多い結果となりましたが、「4. 解体したいが解体費用の支出が困難である」や「3. 改修して使用したいが、改修費用の支出が困難である」などの経済的な理由に起因するものも一定の割合を占めています。

また、「5. 仏壇や家財等が置いたままであり、整理・処分に困っている」や「6. 庭の手入れなどできないので、管理に困っている」などの労力や手間を要するものに困っている回答も一定の割合を占めています。

■空家で困っていること(n=43)[あてはまる項目すべて選択]



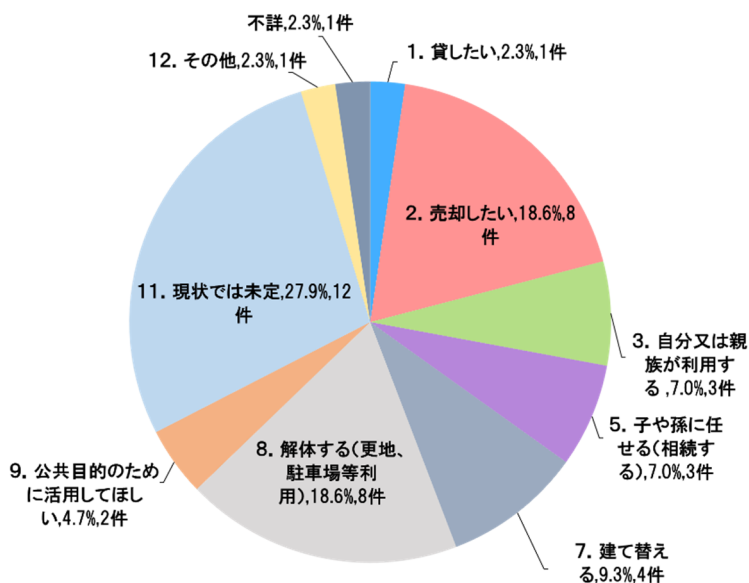
(3) 空家の利活用について

今後の空家の利活用は、「11. 現状では未定」が12件(27.9%)と最も多い結果となりました。一方で「1. 貸したい」、「2. 売却したい」、「8. 解体する(更地、駐車場利用)」を合わせた活用を希望している方が4割弱となりました。

「3. 自分又は親族が利用する」、「5. 子や孫に任せる(相続する)」、「7. 建て替える」を合わせた活用を考えている方も2割強あり、全体の7割弱の方は何らかの利活用を希望されている結果となりました。

また、「9. 公共目的のために活用してほしい」という回答も2件ありました。

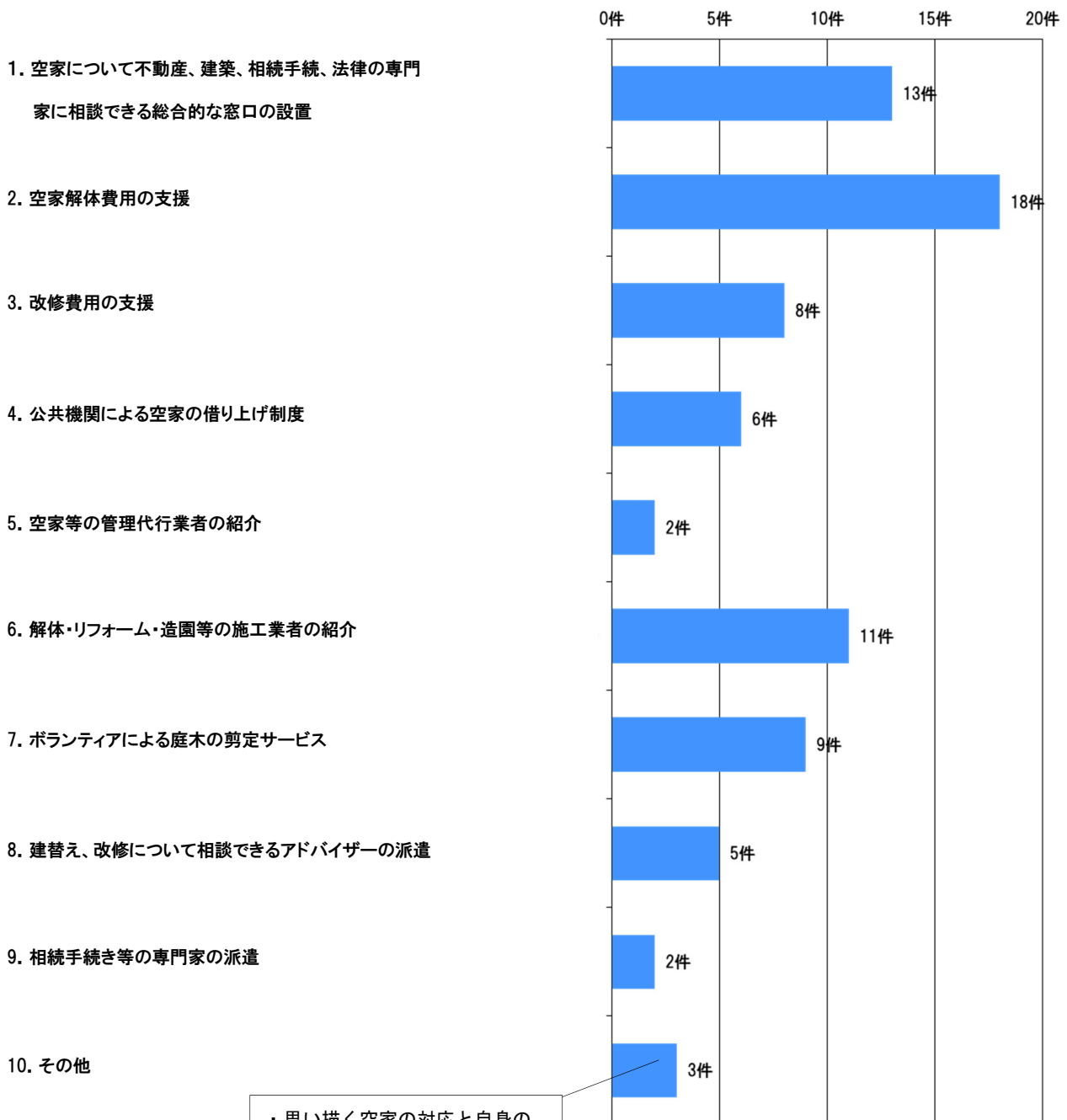
■今後の空家の利活用(n=43)[1項目のみ選択]



(4) 期待する支援

期待する支援策では、「2. 空家解体費用の支援」が最も多く、「1. 空家について不動産、建築、相続手続、法律の専門家に相談できる総合的な窓口の設置」、「6. 解体・リフォーム・造園等の施工業者の紹介」が多い結果となりました。

■期待する支援策(n=43)[3項目まで選択可]



・思い描く空家の対応と自身の
 今後を理解し具体的にシミュ
 レーションしてくれる信用で
 きる人に相談したい。
 など

Ⅲ 集合住宅

1 集合住宅調査の流れ

集合住宅の総戸数は、前回調査時点の集合住宅総戸数を基に、その後に新築された集合住宅については「建築計画概要書」、除却された建物については「建設リサイクル法届出」を活用し、集合住宅総戸数を算出しました。

調査項目は「住居表示」「総戸数」「賃貸・分譲の区分※」「建物数」としました。

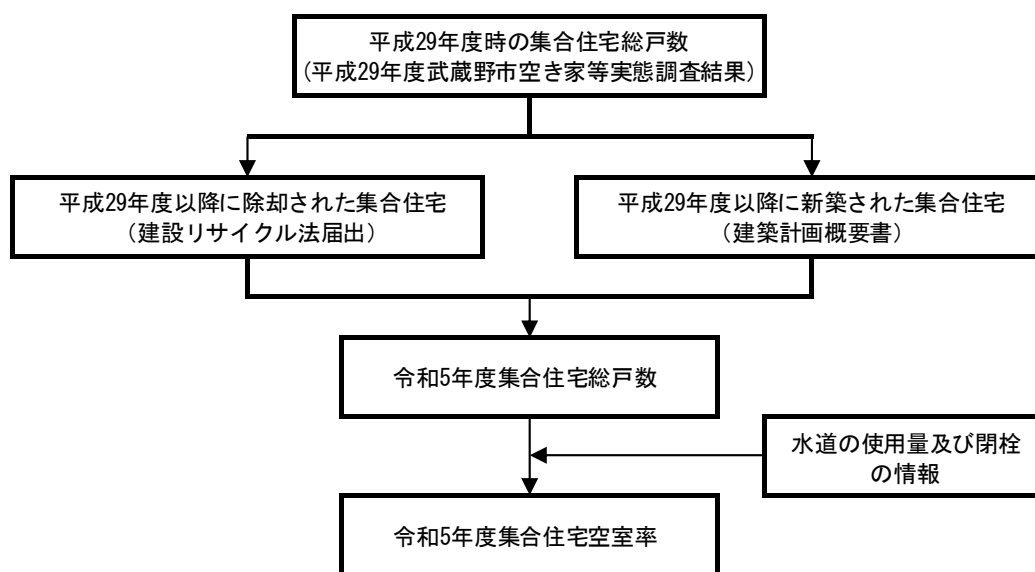
※「賃貸・分譲の区分」

固定資産家屋課税台帳より建物を区分して所有しているものを抽出し、5区分以上を「分譲」、それ以外を「賃貸」としています。

集合住宅の空き室数は、水道の使用量及び閉栓の情報を用いて、「1年間使用されていない」又は「使用量が 6m^3 （1年間に行われる検診時に、1度も 1m^3 を超えなかったもの）以下」である集合住宅の部屋を空き室数として整理しました。そのうえで、空き室数を戸数で除したものを集合住宅の空き室率としました。

集合住宅の空き室率は棟ごと、地区ごと、市域全体のそれぞれの区分ごとに算出しました。

【調査の流れ】



2 集合住宅調査結果

(1) 集合住宅空き室の状況

調査の結果、市内における集合住宅は6,340棟であり、総戸数は68,125戸でした。

空き室数※は7,944戸で、全体の空き室率は11.7%でした。

また、全室空き室の集合住宅は143棟でした。そのうち、141棟(98.6%)が賃貸住宅で、138棟(96.5%)が小規模集合住宅(総戸数10戸未満)でした。

集合住宅の空き室率は「関前1丁目」が30.8%と最も高く、次いで「緑町3丁目」が20.8%、「吉祥寺北町2丁目」が20.0%という結果となりました。

総戸数が多い地区(2,000戸以上)では「西久保3丁目」が13.8%で最も高くなっています。

※水道の使用量及び閉栓の情報のみによる調査結果であり、現地調査を行ったものではない。

■地区別の空き室率

地区	①	②	③	④	⑤
	棟数	空き室数	総戸数	空き室率 ②/③	全室空き室の棟数
吉祥寺東町1丁目	197	219	1,564	14.0%	4
吉祥寺東町2丁目	233	215	1,700	12.6%	5
吉祥寺東町3丁目	149	170	1,110	15.3%	5
吉祥寺東町4丁目	70	70	482	14.5%	4
吉祥寺南町1丁目	124	206	1,350	15.3%	5
吉祥寺南町2丁目	216	240	1,773	13.5%	4
吉祥寺南町3丁目	167	119	1,367	8.7%	1
吉祥寺南町4丁目	149	119	1,035	11.5%	2
吉祥寺南町5丁目	108	60	678	8.8%	1
御殿山1丁目	94	239	1,538	15.5%	5
御殿山2丁目	100	127	906	14.0%	1
吉祥寺本町1丁目	147	276	2,268	12.2%	6
吉祥寺本町2丁目	236	256	2,427	10.5%	8
吉祥寺本町3丁目	194	202	1,688	12.0%	1
吉祥寺本町4丁目	181	160	1,600	10.0%	2
吉祥寺北町1丁目	190	217	1,426	15.2%	6
吉祥寺北町2丁目	85	190	950	20.0%	2
吉祥寺北町3丁目	138	177	1,368	12.9%	3
吉祥寺北町4丁目	98	111	1,250	8.9%	2
吉祥寺北町5丁目	55	61	405	15.1%	1
中町1丁目	168	317	2,755	11.5%	4
中町2丁目	216	277	2,703	10.2%	2
中町3丁目	191	287	3,055	9.4%	8
西久保1丁目	117	78	814	9.6%	1
西久保2丁目	257	325	2,399	13.5%	9
西久保3丁目	237	340	2,471	13.8%	3

地区	①	②	③	④	⑤
	棟数	空き室数	総戸数	空き室率 ②/③	全室空き室の棟数
緑町1丁目	95	121	954	12.7%	3
緑町2丁目	57	164	2,616	6.3%	1
緑町3丁目	28	43	207	20.8%	1
八幡町1丁目	67	70	477	14.7%	2
八幡町2丁目	7	39	253	15.4%	0
八幡町3丁目	52	67	454	14.8%	1
八幡町4丁目	27	33	186	17.7%	0
関前1丁目	21	41	133	30.8%	1
関前2丁目	100	148	887	16.7%	6
関前3丁目	95	178	1,218	14.6%	2
関前4丁目	66	45	527	8.5%	2
関前5丁目	77	63	644	9.8%	2
境1丁目	190	272	2,173	12.5%	7
境2丁目	188	222	2,392	9.3%	1
境3丁目	77	59	504	11.7%	2
境4丁目	77	89	811	11.0%	0
境5丁目	144	211	2,211	9.5%	2
境南町1丁目	132	135	940	14.4%	4
境南町2丁目	161	280	2,840	9.9%	2
境南町3丁目	131	114	1,184	9.6%	1
境南町4丁目	149	176	1,243	14.2%	3
境南町5丁目	112	132	854	15.5%	0
桜堤1丁目	71	107	1,403	7.6%	2
桜堤2丁目	69	57	1,741	3.3%	3
桜堤3丁目	30	20	191	10.5%	0
総計	6,340	7,944	68,125	11.7%	143

■全室空き室の集合住宅の規模別、分譲・賃貸別の内訳(棟数)

(棟)

項目	分譲	賃貸	全体
小規模(総戸数10戸未満)	1	137	138
中規模(総戸数10戸～30戸未満)	1	3	4
大規模(総戸数30戸以上)	0	1	1
計	2	141	143

(2) 平成 29 年度武蔵野市空き家等実態調査結果との比較

集合住宅の総計について、棟数は前回調査の 6,217 棟に対して 123 棟増の 6,340 棟となりました。総戸数は前回調査 66,176 戸に対して 1,949 戸増の 68,125 戸となりました。

空き室数については、前回調査の 4,692 戸に対して 7,944 戸となり、3,252 戸の増加となりました。

空き室率は、前回調査においては 7.1%であったのに対し、11.7%と上昇しました。

地区別では前回調査において空き室率の高かった「八幡町 4 丁目」「関前 1 丁目」「関前 2 丁目」は、引き続き高い数値となっています。

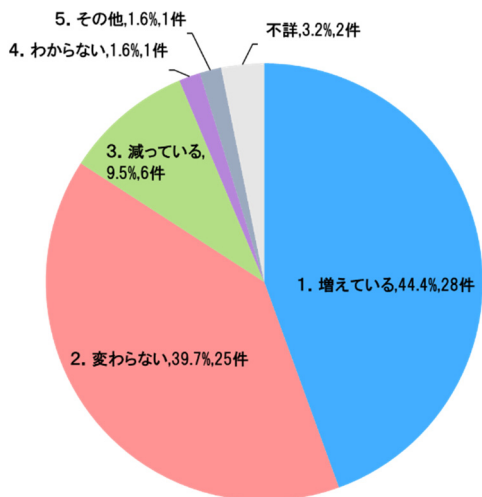
また、「吉祥寺北町 2 丁目」「緑町 3 丁目」は大きく増加がみられました。

■集合住宅調査結果による比較

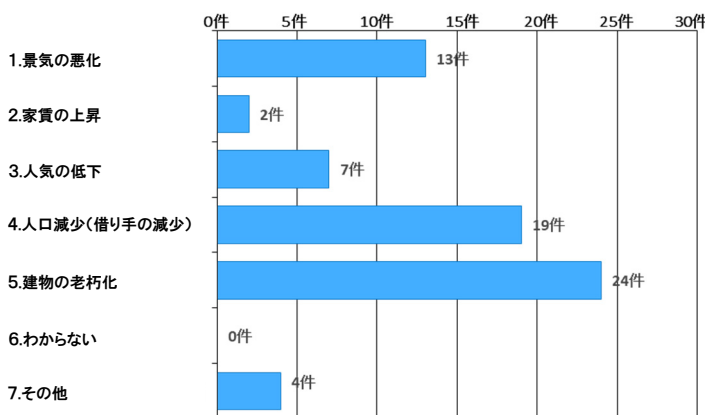
地区	平成29年度調査				令和5年度調査			
	① 棟数	② 空き室数	③ 総戸数	④ 空き室率 (2/3)	① 棟数	② 空き室数	③ 総戸数	④ 空き室率 (2/3)
吉祥寺東町1丁目	187	104	1,423	7.3%	197	219	1,564	14.0%
吉祥寺東町2丁目	221	92	1,628	5.7%	233	215	1,700	12.6%
吉祥寺東町3丁目	149	79	1,133	7.0%	149	170	1,110	15.3%
吉祥寺東町4丁目	72	34	480	7.1%	70	70	482	14.5%
吉祥寺南町1丁目	120	124	1,339	9.3%	124	206	1,350	15.3%
吉祥寺南町2丁目	211	142	1,807	7.9%	216	240	1,773	13.5%
吉祥寺南町3丁目	175	100	1,380	7.2%	167	119	1,367	8.7%
吉祥寺南町4丁目	149	78	1,061	7.4%	149	119	1,035	11.5%
吉祥寺南町5丁目	105	51	671	7.6%	108	60	678	8.8%
御殿山1丁目	89	125	1,503	8.3%	94	239	1,538	15.5%
御殿山2丁目	98	61	904	6.7%	100	127	906	14.0%
吉祥寺本町1丁目	145	234	2,218	10.6%	147	276	2,268	12.2%
吉祥寺本町2丁目	227	149	2,294	6.5%	236	256	2,427	10.5%
吉祥寺本町3丁目	190	73	1,620	4.5%	194	202	1,688	12.0%
吉祥寺本町4丁目	175	102	1,569	6.5%	181	160	1,600	10.0%
吉祥寺北町1丁目	184	144	1,421	10.1%	190	217	1,426	15.2%
吉祥寺北町2丁目	86	49	943	5.2%	85	190	950	20.0%
吉祥寺北町3丁目	137	99	1,365	7.3%	138	177	1,368	12.9%
吉祥寺北町4丁目	92	81	1,099	7.4%	98	111	1,250	8.9%
吉祥寺北町5丁目	54	42	429	9.8%	55	61	405	15.1%
中町1丁目	159	142	2,511	5.7%	168	317	2,755	11.5%
中町2丁目	205	109	2,541	4.3%	216	277	2,703	10.2%
中町3丁目	182	139	2,693	5.2%	191	287	3,055	9.4%
西久保1丁目	114	57	803	7.1%	117	78	814	9.6%
西久保2丁目	248	165	2,319	7.1%	257	325	2,399	13.5%
西久保3丁目	234	214	2,441	8.8%	237	340	2,471	13.8%
緑町1丁目	90	78	923	8.5%	95	121	954	12.7%
緑町2丁目	57	98	2,616	3.7%	57	164	2,616	6.3%
緑町3丁目	29	21	210	10.0%	28	43	207	20.8%
八幡町1丁目	69	63	503	12.5%	67	70	477	14.7%
八幡町2丁目	7	4	253	1.6%	7	39	253	15.4%
八幡町3丁目	53	55	460	12.0%	52	67	454	14.8%
八幡町4丁目	24	24	175	13.7%	27	33	186	17.7%
関前1丁目	22	36	134	26.9%	21	41	133	30.8%
関前2丁目	106	130	906	14.3%	100	148	887	16.7%
関前3丁目	93	86	1,209	7.1%	95	178	1,218	14.6%
関前4丁目	64	40	513	7.8%	66	45	527	8.5%
関前5丁目	75	51	632	8.1%	77	63	644	9.8%
境1丁目	184	126	2,083	6.0%	190	272	2,173	12.5%
境2丁目	194	136	2,266	6.0%	188	222	2,392	9.3%
境3丁目	81	71	535	13.3%	77	59	504	11.7%
境4丁目	80	63	829	7.6%	77	89	811	11.0%
境5丁目	142	146	2,161	6.8%	144	211	2,211	9.5%
境南町1丁目	134	51	930	5.5%	132	135	940	14.4%
境南町2丁目	149	167	2,695	6.2%	161	280	2,840	9.9%
境南町3丁目	126	71	1,139	6.2%	131	114	1,184	9.6%
境南町4丁目	145	114	1,216	9.4%	149	176	1,243	14.2%
境南町5丁目	114	86	878	9.8%	112	132	854	15.5%
桜堤1丁目	72	98	1,403	7.0%	71	107	1,403	7.6%
桜堤2丁目	70	64	1,724	3.7%	69	57	1,741	3.3%
桜堤3丁目	29	24	188	12.8%	30	20	191	10.5%
総計	6,217	4,692	66,176	7.1%	6,340	7,944	68,125	11.7%

空き室数の増加について、「空き室は増えていると感じるか」と「増えていると感じる理由」について不動産事業者に対して実施したアンケートの回答から、「1. 増えている」と回答した事業者が全体の44.4%と最も多い結果となり、増えていると感じる理由については、「5. 建物の老朽化」、「4. 人口減少（借り手の減少）」、「1. 景気の悪化」などが主な理由となっています。

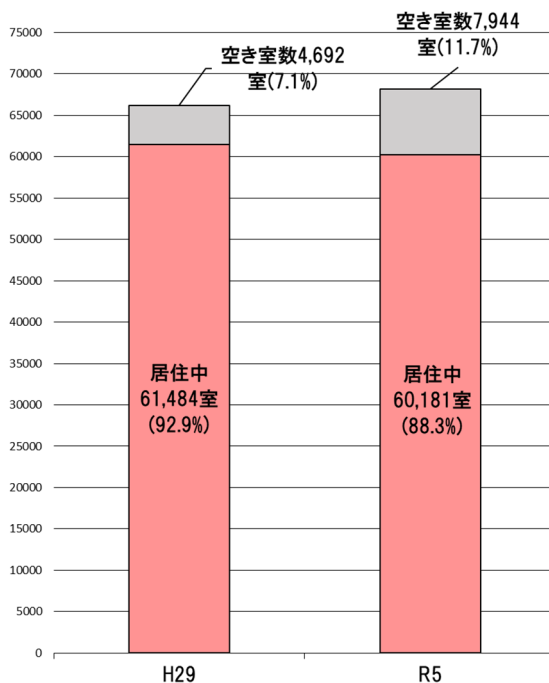
■空き室は増えていると感じるか(N=63)[1項目のみ選択]



■増えていると感じる理由(N=28)[あてはまる項目すべて選択]



■居住中と空き室数の比較



※空き室数+居住中=総戸数